

会 議 録

1 会議名

令和6年度第2回上越休日・夜間診療所運営委員会会議

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

・令和6年度の診療状況等について

○協議事項（非公開）

・令和7年度事業計画について

3 開催日時

令和7年2月13日（木）午後7時00分から午後7時40分まで

4 開催場所

上越市役所木田第1庁舎4階 401会議室

※ウェブ会議にて実施

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

上越市審議会等の会議の公開に関する条例第7条第1項第6号「国等との協力関係事項」に該当するため

7 出席した者 氏名（敬称略）

・ 委 員 高橋委員、林委員、五十嵐委員、佐藤委員、田部委員、傳田委員、
 籠島委員、古賀委員、小出委員、山崎委員、羽深委員、小林委員、
 山岸委員

・ 事務局 小林健康福祉部長、青山地域医療推進課長、大瀧参事、
 太田係長、西條主事
 妙高市松橋健康保険課長

8 発言の内容（要旨）

(1) 会議の開会を宣言

上越休日・夜間診療所運営委員会規則第5条第2項の規定により、委員の半数以

上の出席を確認、会議の成立を報告。

(2) 小林健康福祉部長挨拶

(3) 報告事項（公開）

○令和6年度の診療状況等について

【高橋委員長】

報告事項の「令和6年度の診療状況等について」事務局に説明を求める。

【太田係長】

資料1から資料3により説明。

【高橋委員長】

委員に質疑を求める。

【小林委員】

年末年始の今後の検討課題として音声案内の導入とあるが、すぐに導入できるのか。

【青山課長】

導入時期は未定である。費用や技術的な面からどの程度対応可能か検討していく必要がある。

【林委員】

厚生労働省のホームページにはオンライン診療について課題がいくつか挙げられており、そのうちの一つとして、インフルエンザと診断されても、患者の状態によっては酸素投与や喘息発作等の迅速な判断ができないことが挙げられている。重症化のリスクが考えられる疾患やインフルエンザの疾患、腹痛からの虫垂炎や尿路感染症等、さまざまな疾患を見逃してしまう可能性を考慮した上でオンライン診療を検討する必要がある。

また、総務省のホームページに掲載されているへき地医療のオンライン診療の事例では、あらかじめ設置した拠点に患者が行き、患者には看護師が付き添いながら、医師が自宅からオンライン診療を行うという方法が挙げられている。スマホを使い慣れていないご老人でも利用しやすく、少ない人的資源を活用しながら、複数のシステム運用が可能になるのではないかと思います。

検査の手段については、現在、診療所では検査キットを使っているが、喉にペンライト状の機器を入れ、画像診断でAIが分析をする「Nodoca」という検査機器がある。「Nodoca」の感度は80%程であり、AIの分析技術が進めば、尿路感染症やアデノウイルスも診断できるようになると思う。効率を上げるといった点で、費用もあまりかからないので、参考にしていきたい。

【青山課長】

貴重なご意見をいただいた。予約システムの件も含め検討中の段階ではあるが、ご指摘いただいた中で取り入れられるものは積極的に取り入れ、皆様にもご意見

をいただきながら導入について検討したい。

【竈島委員】

「Nodoca」を導入すると診療が進みやすくなると思うが、どのくらいコストがかかるのか。

【林委員】

初期導入の額は 30 万円程で、維持費はかからないが、バージョンアップには年間 10 数万円かかると思う。例えば、今までできなかったアデノウイルスや溶連菌が判断できるようになると、バージョンアップが必要になり、その度にコストがかかる。また、保険適用は 6 歳以上という制限があり、子供にはかなり威圧感がある器具だが、大人には汎用できるかなと思う。

(4) 協議事項（非公開）

○令和 7 年度事業計画について

(5) その他（非公開）

○救急搬送患者数について

(6) 閉会

9 問い合わせ先

健康福祉部 地域医療推進課 TEL 025-520-5699

E-mail:chiikiiryou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。